

No.73 contents

- 2 春季二科展開催
- 3 〈絵画〉総評 授賞投票経過 2018春季二科展 選抜出品者
- 4 〈絵画〉作品寸評
- 6 〈彫刻〉総評 特集—作品の展示について
- 7 〈彫刻〉受賞選抜者作品
- 8 第102回二科展巡回展
- 11 熊本震災復興支援活動報告
- 第103回二科展巡回展日程(予定)
- 12 第103回展に向けて 支部通信
- 北海道支部展への期待 第4回二科東北支部連合展
- 14 第40回定時会員総会 役職一覧
- 15 第103回二科展日程表 お知らせ 訃報
- 16 第4回コラボ展示 新企画 短信 事務局だより
- 2018春季二科展の展示者数と展示点数 編集後記



春季

発行人：田中 良 発行：公益社団法人 二科会
<http://www.nika.or.jp/> TEL：03-3354-6646





12室



出品者のギャラリートーク

絵画部 総評 松室重親

花見の宴も終わり、新緑の季節、東京都美術館で2018春季二科展が開催された。

今回は出品点数も多く、陳列にも工夫が要ったが、全体に巧く配置出来た。

初日は午後2時から開場。待っていた人が次々に入場して、展示を終えた会員達が明るく笑顔で迎え、賑やかな幕開けとなった。

絵画部は、彫刻部の協力を得て、立体と平面の融合

展示の部屋を設定した。第1室から入ると、前年度受賞選抜者の意欲的な大作が並び、自由で個性的な表現で力量を競い合い、観客は一点ずつ足を止めては見入っていた。また、会員の部屋は、節度のある作品が整然と並び、その確かさが眼を引いた。他に具象的なものと抽象的な作品を別々に分け、鑑賞し易く特色を出す工夫をして並べた。

順路に従って行くと彫刻室に入る。此処も一部に絵が掛けている。会員、会友と共に、前年度受賞者の様々な彫刻で、その占める

空間は、立体だけに不思議な好奇心と想像を生み、その作品前で暫く見入っている観客もいて面白かった。秋の本展で大作が見られるのが楽しみである。

初日の懇親会も、多数の来賓の方が参加されて、総体的に盛り上がり、意義のある春季展であった。終わってみて、会期が短い、将来ある新人をもっと優遇してみても如何、という声もあり、今後の企画の参考にすることを期待したい。

春季二科展

授賞投票経過



授賞式 春季二科賞 筒井通子さん

絵画部75名の会員による投票の結果、一人4名以内の記入で23票を獲得した奈良の筒井通子さん(二般)が春季二科賞に、また22票の新潟の横山杏子さん(二般)と16票の千葉の黒川壽子さん(二般)が春季賞に選ばれた。次点には1票差で吾田弘子、木村隆行、富秋和子、吉田紗知の4名が続いた。僅差ではあったが、投票結果を精査し尊重して決定した。

今年度も地方支部からの選抜者の頑張りが目立った。(生方純二)

2018春季二科展 選抜出品者

青木洋子(福岡)	朝比智美(三重)
小川幸男(福岡)	石川篤司(大阪)
小林君代(群馬)	猪立山三(福岡)
工藤絵里子(埼玉)	上田有見子(大阪)
佐々木美(岩手)	小野寺さゆり(宮城)
牟田志津子(福岡)	川島正(熊本)
吾田弘子(神奈川)	川島理智子(熊本)
富秋和子(神奈川)	川島隆行(愛知)
吉田紗知(千葉)	木村隆子(千葉)
水元美穂子(京都)	黒川壽子(千葉)
木村民治(千葉)	佐々木邦枝(東京)
清水英子(東京)	佐治登茂子(福島)
田中とも恵(和歌山)	杉本恵理(三重)
田上俊一(熊本)	高橋さち(千葉)
中村登(北海道)	武部美智子(青森)
中村百合江(東京)	筒井通子(奈良)
野久保由美子(東京)	中野誠(鹿児島)
長谷川晴香(京都)	中野三保子(北海道)
星野千鶴子(埼玉)	野田喜美代(滋賀)
水沢道子(愛知)	畑中良二(宮城)
三津川好則(滋賀)	日比野恵美(愛知)
安新治(茨城)	道上恵美(和歌山)
柳澤綾子(京都)	横山杏子(新潟)
藤田明美(神奈川)	西澤桂(長野)
吉田朋世(奈良)	与島雪(富山)
稲葉朗(東京)	坂本幸夫(群馬)
カツノユキコ(東京)	井上幸夫(群馬)



2018春季二科展 2018.4.17~4.24 東京都美術館

春季二科展 開催 田中良

新緑眩しい上野・東京都美術館で、二〇一八春季二科展が開催された。

春季展の第一回は昭和十一年三月、日本橋高島屋で始まり、ここ東京都美術館での開催は平成二十一年からで、春季展は五十四回

目を迎える。秋の二科展に比べて春季展は規模こそ小さいが、会員には実験の場として、選抜者には受賞者展としての意味合いも含み、意義が深い。

今年の展示空間は絵画、彫刻の展示委員の協力と創意工夫により互いの融合が図られ、鑑賞者からも高い評価も頂いた。これもひとえに会員の皆様のご協力の賜と深く感謝を致します。

秋の第一〇三回二科展に向けて皆様のご健康と更なる飛躍をお祈りいたします。



会員展示 6室



選抜作家展示 2室



会場入口



会員展示 5室

私の選ぶ作品寸評 寺田真・益子佳苗・加藤ひとみ会員



中三保子「Motor vehicle 1959」 F100



川島 正「残照」 F100



道上 恵美「ニンゲル」 F120

機械女子なのか、今回も複雑な部品と配線図らしきモチーフが丁寧に描かれていて好感。トラックのエンジンルームに迷い込み、そこに現れた無骨な機械からみつく美しい曲面に魅せられたのだろうか。モチーフが少し重なり合えば更に又、新しい美が見えるかも。(益子)

中三保子

動き、フォルムが本展の時より強く大きく表現され手前と奥を意識し重厚な作品になっている。木の洞、切断された腸管、心にあいた空とも見え、色々と想像できた。穴の中を黒ではなく暗くし、そこを描きこめばもっと深く吸いこまれたかも。(益子)

川島 正

暖かみのある茶色にみずみずしい緑が響き合って美しい。点描が生命感を出し、のびのびとしたおらかな作品。森の中は流木に絡む水草のようにも、生きものが潜んでいるようにも見え、想像力をかき立てられる。点描の大きさ、密度のつけ方に変化があると良い。(寺田)

道上 恵美



武部 美智子「三の意匠」 F100



上田 有見子「ガラスのりんごNo.3」 F100



望月 強「秋の街」 F100

何気ない木立に三本の大木を強調して描いている。描写力があり日本画か水彩画にも見える。抑えた色調で地味にも見られるかも知れないが、とても味のある作品である。バックの処理が上手いと思った。(加藤)

武部 美智子

ガラスのりんごなのに何故か瑞々しさもあり写実的に圧倒される。海か、宇宙か、今回はバックを暗く押さえガラスのりんごが惑星にも見え、より引き立っている。若々しく新鮮な作品である。(加藤)

上田 有見子

客のいないテラスレストランの様子。材質まで感じ取れる黄色いイスとテーブルに枯葉が落ち、私の好きなモチーフである。光と影の表現がこの作品のメインになっている。強いて言えば後方のイス等の影を整理するともっと良いと思った。(加藤)

望月 強

春季展 受賞作品寸評



黒川 壽子「線の解放」 S100



横山 杏子「馳せるひとへ」 F130



筒井 通子「海の詩」 F130

■春季賞 黒川 壽子 暖色の太陽が春の訪れと喜びを告げている。トンネルを抜けた車がハイウェイを飛ばし快適なドライブ中、黒い池と周囲のブルーの波しぶきは水解か。背中合わせの白鷺は早くも恋の季節！ そんなドラマを感じる心象風景。ペン描きの多様な線が自然の豊かさを表現している。(五味 祥子)

黒川 壽子

■春季賞 横山 杏子 超現実主義の巨匠、ダリの絵を思い出させる。横山さんは不思議な夢の世界を描くシュールレアリストだ。女性の魔力、呪術の世界へと誘う。赤い大きな唇とその中に輝く瞳や蝶が飛ぶ神秘的な湖は丁寧に描かれ、自由に伸び伸びした構成等は好感が持てる。(香川 猛)

横山 杏子

■春季二科賞 筒井 通子 多種の波形が多量に用いられ、その中に沢山の表情豊かな人物や動物が登場する。曲線の中にも、ナイフでスクラッチされた曲線が描かれ、意味深いドラマが繰り広げられ、そこに人間の内面に潜む生命体を感じられる。ダイナミックな構成に作者の勢いを感じた。(木戸 征郎)

筒井 通子



野田 喜美代「情景」 F100



田上 俊一「干し大根」 F100



小野寺 さゆり「遠い二人」 F130

野田 喜美代 重苦しく男っぽい工場内を円と柔らかな曲線の構成で静かで優しい作品になっている。上部から太い白を流す動きは、円をシャボン玉の様に用いて軽やかなリズムを与えるのに役立っている。画面が青のみで少し冷たいので彩度の低い暖色がどこかに欲しい気がした。(益子)

野田 喜美代

田上 俊一 誰もが知っている題材を扱いながらもインパクトのある作品。爽やかな色調の中に愛情が感じられ好感が持てる。三連の横の構図は単調にならぬよう並べ方にリズム感があると良い。大根の中に二つ三つアクセント、主役を務めるものが欲しい。今後の発展が楽しみ。(寺田)

田上 俊一

小野寺 さゆり 金色がかった褐色に朱、赤、青緑色等が配され色彩が美しい。構図も大きく取ってあってスケールを感じさせる。正面の人物の白い頭部が説明的。背景ももっと溶け合って一体となると、よりどっしりと大きな作品になったと思う。(寺田)

受賞選抜者作品



カツノユキコ 「赤達磨」



吉田 朋世 「前世」



稲葉 朗 「Chalk up 3」



西澤 桂 「春の陽」



藤田 明美 「転がれない」



井上 幸夫 「歩む・18・春」



坂本 絢佳 「kotodama」



与島 雪 「好きな時間」



展示風景

所が固定化されないようにします。

展示委員は全会員参加でローテーションが組まれて、必ず全員が5年に2回ほど展示委員になるようになっていきます。

会場全体のコンセプトの決定も、各展示委員が対等な立場で話し合いをして全体が諒解をしたうえで、展示委員長がまとめます。作品の配置はその展示委員会の合意に基づいて決めます。その際、自分の作品の場所が気に入らなくても、会場全体のコンセプトを優先します。

また設置場所が固定化しランク付けされない様に毎年作品の展示場所を移動しています。その際、会員会友・一般・受賞者・理事・評議員・展示委員などの方々の展示場所が固定化しないよう腐心しています。

いかがでしょうか。このように運営されている二科会彫刻部に、作品を出品してみませんか。今後も我々は、個々の作品が個性的でフロアー全体が自由に生き生きとした展示空間になることを目指していきます。

《文責 廣瀬・宮澤》

三、作品は皆等しく（作品相互につぶし合うことなく）いきるよう展示する。

同じような作品を比べるような展示はしません。大きさ・材質・色などが似かよっていない作品を並べ、作品の個性がいきるような展示を目指します。360度見まわした方がいきる作品は会場の中心部へ、正面性が強い作品や大きくて周りの作品が見えにくくなる作品は壁際に展示します。

他にフロアー（野外・屋内・休憩室）の特性に合わせて展示します。

最後に大切なこととして、「展示委員会は、上記の原則を出来る限り達成すべく、上下の関係なく対等な話し合いによって運営される」があります。この考え方は展示だけに限らず、展覧会業務全てに関わる二科会彫刻部の基本になるものです。

彫刻部

春季二科展総評

吉野 毅



春季二科展を東京都美術館で開催できるようになったのは、平成21年からである。その時の春季展彫刻の総評に、「やっと獲得できた展示空間」という言葉がある。展示した作品を、これでゆつくり鑑賞してもらえよとの思いが、込み上げてきたのだろう。

彫刻はいろいろな表現様式、いろいろな材質（石・木・土・石膏・金属・樹脂など）で造られている。そのような作品に込められた、作者のメッセージを読み解くためには、鑑賞者が作品の回りを自由に移動できるスペースが必要になる。そして視点の移動によって彫刻の表情は変化し、鑑賞者は特定のイメージを押し付けられることもなく、自発的なイメージの世界に入っていくのである。

デパートの催事場をパネルで仕切って造られた、俄仕立ての狭い展示場は、彫刻展示の条件として、悪過ぎた。当然会員の出品意欲がなくなる要因ともなった。銀座松屋での春季展は、昭和61年から平成16年まで続いた。

東京都美術館の、白い壁に囲まれた天井の高い空間での展示が10回目（平成23

年は美術館改装のため春季展は休止）となる今回は、絵画と彫刻との「融合展示」が計画され、実施された。絵画会場の広い空間の真ん中に置かれた石の作品2点は、会場の空間を引き締める効果にもなり、作品自体もメッセージをしっかりと発信しているように見えたが、彫刻会場での絵画と彫刻は、絵画会場に比べて狭いこともあり、「融合展示」を敢えて試みた効果はなかったように見えた。壁面に整然と展示された絵画と、無制限の空間に無造作に置かれた彫刻が、心地のよい響き合いをすることの難しさがあるようだ。



特集

作品の展示について

展示会場のどこに作品を配置するかは、どの公募展でも会の考え方が現れる重要なテーマといえます。

二科会彫刻部の長い歴史の中で作品の展示場所決定は、一部の理事・評議員によって行われてきました。しかし、92回展からは「展示委員会」方式を採用するようになりました。この展示委員会は展示だけでなく、展覧会業務の多くを統括するもので、全会員の中からローテーションにより約20名でこの委員会を構成します。展示委員になった会員はその年の展示方針から会場の可動壁の配置、全作品の展示場所などの決定をします。展示委員の任期は2年で、2年目の10名は次の年に新しい10名と入れ替わります。

展示委員会による運営の良いところの一つとして、会員全員が会の目的ともいえる展示に関わることが挙げられます。

そもそも二科会の理事・評議員といった役員の選出は、会員の公正で公開された選挙によって選ばれています。そのうえに彫刻部では会員全員参加の「展示委員会」方式を採用しています。

※展示についての基本的な考え方

一、展示会場は各作品の個性をいかし、自由な空間であることを、全体の基調とする。

二科展は100年を超える歴史ある公募展です。中でも「自由・個性」というテーマは創立当時から二科展のテーマであり続けています。展示委員会は、各委員が自由に意見交換し、展示委員長を中心に毎年会場の各作品の個性をいかした自由な空間創りを目指しています。

二、出品者の地位や立場に関係なく、作品中心に展示する。

会場の場所によってメイソンの場所が発生し、そこから場所によるランク付けと地位や立場によって展示場

会」方式を採用しています。したがって、地位や立場の優位によって作品を陳列するようなことが起こらないように工夫されています。

二科会彫刻部では、展示に際して大切にしていることを以下の3点にまとめましたので紹介します。



第102回京都展は、京都市美術館の改修工事のため、平成29年から3年間、京都市美術館別館での開催となり、平成29年10月24日（火）から29日（日）の6日間、開催されました。



今回は手狭な展示スペースの都合上、作品点数、大きさなどギリギリの状態、写真部、デザイン部にも無理をお願いし、絵画120点、彫刻15点、デザイン62点、写真84点、計281点の展示となりました。搬入当日は台風の影響の通行止めなどで一部作品の搬入が遅れ、その為展示時間も少なくなり困難を伴いました。

開催し、写真部と絵画部のギャラリートーク、弦楽三重奏のコンサートを行いました。受賞者は絵画部で二科賞、会員推奨ダブル受賞の山岡明日香、他受賞者2名、会友推奨5名を数え、本年度も京滋の作家の活躍が見られました。

（黒川 彰夫）

大阪展は、10月31日より11月12日まで、天王寺公園内の大阪市立美術館で開催しました。



大阪、兵庫、奈良、和歌山在住の支店メンバー（会員11名、会友18名、一般55名）による出品作品と、全国巡回作品全点、及び京都、滋賀会員の大作作品を加えた総点数215点の絵画作品に、彫刻部作品14点を加えた展示です。



毎年、大阪展は文化の日と重なり、恒例となったロビーコンサートをはじめ、家族三代でアートに親しんでもらえる「第66回こども二科」など、様々なイベントを併設。多くの方々に「芸術の秋」を堪能していただく様に努めています。

（高畑 彰）



柳田 邦夫

10月3日から9日まで、愛知県美術館ギャラリーで開催しました。総入場者数は7,279人、作品総展示数は640点でした。県の美術館全館使用の規模の公募団体展も徐々に少なく



なってきましたが、二科展は健在です。会場の一角で四部門の会員の色紙、小品、約1000点の抽選会を実施しています。これが中々好評で、観客の方々の楽しみになっているようです。

今年の本会の田中理事長、搞事務局長の両先生にお願いいただき、出品者の意気も例年以上に盛り上がり、展覧会が今までより一段と活気づきました。

（三後 勝弘）

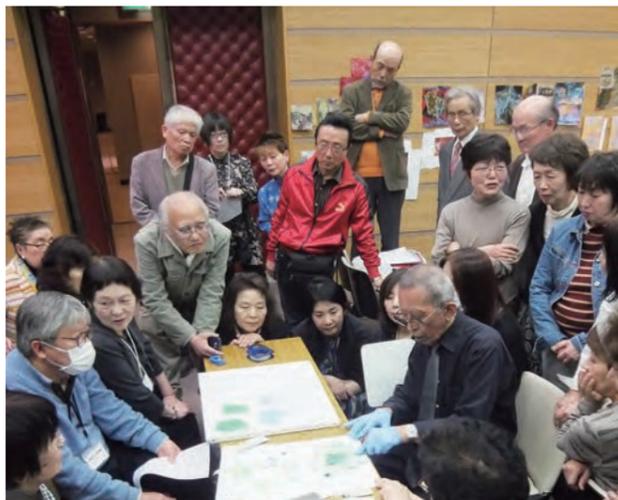
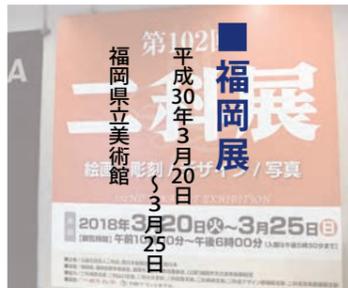
二科展富山展は3年ぶりに開催されました。開会式は県、市、美術関係者など多くの来賓を迎えて行われました。主催者の富山テレビ放送中西社長の挨拶、テープカットに続き



山岸北陸支部長の作者のエピソードをまじえた解説に、会場の雰囲気が高まりました。317点の作品を複合施設である会場の特徴を生かした展示になるよう工夫しました。ギャラリーでは絵画を一点でも多くとの思いで、詰めた展示をしました。二科の熱気を感じさせる迫力ある空間を作ることができました。また、天井の高いアトリウムには、写真を中心に包むように絵画、彫刻、デザインの四部門を同一空間に展示し、二科をアピールしました。



昨年につづいて福岡県立美術館での開催となりました。会場が狭いため、会場構成に気を遣いましたが、田牧会友の事前の計画的取組みで見やすい会場になったのではないかと思います。



ます。展示点数は330点（絵画142、彫刻9、デザイン59、写真120）。地元から受賞者、二点入選者が増え、会場に勢いを感じさせるようになったように感じます。入場者数は3,556人と、例年より伸びてきており、今後の励みとなりました。

演会で力をつけ始めた受講生の熱心な取り組みで、会場が熱気に包まれました。またギャラリートークも、初日の中原先生を筆頭に毎日地元の出品者による、自作を語る「ギャラリートーク」を行いました。こちらが大変好評で、見に来ていただいたお客様から貴重なご意見もいただきました。会場入口での景品抽選では、鶴田会友のご努力により協賛者から提供いただいた豪華景品の抽選も行い、賑わいに華を添えました。（田浦哲也）



広島展は例年通り正月明け9日、広島県立美術館県民ギャラリーで初日を迎えました。絵画、彫刻、デザイン、



写真の4部門総数578点の展示、6,386人の来館者がありました。広島展は会場に対し展示数が増えるに多く、絵画は2段掛け、写真3段掛けの展示がほとんどで、来館者には心苦しく思っています。初日のテープカットと懇親会には、昨年引き続き派遣理事の西先生をお迎えすることができました。支部同人へのご指導を頂ける機会では丁寧なご指導、ご助言を頂き、支部同人一同

感激、感謝しました。会期中は受付当番としてでなく来場者をお迎えするという趣旨と、4部門の作家同士の交流を図り、互いの作品を通して勉強したいということなどで、出来るだけ会場に詰めていこうと申し合わせています。控室での談笑も楽しい一時です。巡回展を通して絵を描く楽しさ、すばらしさを広げ、次回につなげればと願っています。（高藤博行）

熊本震災復興支援活動報告一被災地の子供達 木戸 征郎

「二科会」が絵画指導
西原村・山西小 古里の四季 描いたよ！
熊本地震で被災を受けた地区の子供たちの心のケアに役立つことを願って、平成29年11月に阿蘇郡西原村立山西小学校にて、6年生の卒業記念共同制作作品の支援活動を実施した。

熊本地震で被災を受けた地区の子供たちの心のケアに役立つことを願って、平成29年11月に阿蘇郡西原村立山西小学校にて、6年生の卒業記念共同制作作品の支援活動を実施した。卒業式を目前にした3月上旬、子供たちが描いた大作の題名をみんなで考えていただくこととした。それ

それから数多くの題名候補として挙がり、その中から絞り込み「大好きなふるさと、西原村の四季」に決定した。子供たちの深い思いが絵に表現されている。作品は新装なった体育館に卒業記念作品として展示された。9月には103回二科展会場に展示される。



鹿児島での開催が68回目となる第102回二科展巡回鹿児島展は、地元作家の作品を含む絵画、彫刻、デザイン、写真の作品300

点（絵画110、彫刻10、デザイン90、写真90）が展示され、盛大に開催されました。オープニングでは前田支部長が「若い世代が新しい挑戦をしている展覧会」と挨拶し、初日から多くの美術ファンで賑わいました。また、会期中には会員・会友・同人によるギャラリートークを行い、それぞれ特徴のある内容でお客様に楽しんでいただけました。

昨年より1日短い会期であったにも関わらず、入場者は例年並みの3,049人でした。鹿児島の春の風物詩ともいえる巡回展ですが、さらに充実した展覧会となるよう、今回の課題を整理して、次回につなげたいと思います。（野平智広）

- 第103回二科展 巡回展日程(予定)
京都展 京都市美術館 別館 平成30年10月2日(火) ~ 10月7日(日)
大阪展 大阪市立美術館 平成30年10月30日(火) ~ 11月11日(日)
広島展 広島県立美術館 県民ギャラリー 平成31年1月15日(火) ~ 1月20日(日)
鹿児島展 鹿児島県歴史資料センター 黎明館 平成31年3月10日(日) ~ 3月17日(日)
福岡展 福岡県立美術館 平成31年3月19日(火) ~ 3月24日(日)

第103回二科展に向けて

●秋田支部

秋田支部は、現在7名の小さな所帯です。以前は14名と出品者もいたのですが、高齢で退会や不出品としないで消滅状態でした。

今回、ようやく1名参加して下さり7名となりました。支部活動は長くにおいて残念ながらしていませんでした。他展出品者との交流で色々な意見交換できる地元の会に所属し、そこでの発表という形式で秋田作家協会に2名、秋田国際美術協会に3名が参加しております。

東北支部連合展が2015年に始まり、私達も意欲的に参加し、活動の場を広げるということは大変良かったと思っております。

地元での開催はどこの会派も行なっておりますが、ワンランクアップの東北全体で行なうというのは、大きな宣伝材料でしたし、出品者を増やすという意味でも効果的でした。そして、他県の方と交流ができ批評していただけるという大きなメリットもありました。

今後の課題として、もう少し出品者を増やし、秋田支部展を開催できるように、お互いの研鑽を積んでいきたいと思っております。

支部長 石黒 厚子

●山形支部

山形支部は2017年に発足し、支部員4名全員が彫刻部です。支部発足前から関係各位のご厚意を賜り、「東北支部連合展」には初回から参加させていただいております。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。

当支部単独での活動実績はございませんが、皆様の温かい応援とご指導を力に、制作してまいります。

支部長 町田 至

★支部ご参加のお問い合わせ・詳細は二科会事務所まで。

●福島支部

第39回二科福島支部展
平成30年7月18日～7月23日
福島市民ギャラリー

今年で39回ですが、毎年、同人14名が福島市民ギャラリーで支部展を開催しています。34回展から中島敏明理事より、それ以前は田中良理事より18年間、佐藤睦郎先生より15年間、指導を頂いて向上に努めてきました。また、二科東北支部連合展に支部として参加し、理事の先生方からご指導を頂いております。

支部長 須田 美紀子



●岩手支部

岩手支部は、2004年再設立を申請し承認され、絵画・デザインの二部門で組織構成されています。同人(絵画8人・デザイン6人)は、地域の芸術、文化の発展に貢献し、相互の親睦と資質の向上を図ることを目標・目的としています。

支部の企画として年1回の支部展は14回に至っています。回数を重ねるごとに好評を得、地域の皆様に刺激を与え、増々の賛同を得ております。そして、東北支部連合の発足により、理事の先生方の指導で勉強する機会が多くなり、同人の活躍が目覚ましく、支部の今後が楽しみです。

支部長 佐々木 実



●青森支部

二科青森支部60回記念展
～鷹山宇一と二科の仲間たち～
平成30年2月10日～3月11日
七戸町立 鷹山宇一記念美術館

二科青森支部展も60回を迎え、鷹山宇一記念美術館主催による青森の二科の先人の作品展示にあわせて支部の展示も行い、60年の歴史の重みを感じさせる展覧会となりました。

作曲家・ピアニストの西村由紀江さんによるコンサート～絵画とピアノのしらべ～も、展覧会に花をそえてくださり、二科を地域の方々に知って頂くことにもつながりました。

一ヶ月間の入館者数は400名と、大都市とは比較にはなりませんが、限られた予算で協力し合い、心に残る60回展を行うことができました。このような活動をコツコツ続けて、二科の風を青森にも吹かせたいと思います。

支部長 木村 精郎



●宮城支部

宮城支部は、同人3名から出発した歴史の浅い支部です。当県で平成27年に第1回二科東北支部連合展を開催し、初日に作品研究会を実施しました。年々同人が増え、今年の第4回展では、絵画17名、彫刻2名が38点の作品を出品します。研究会では、これまで二科会より理事長・理事の先生方からご指導をいただき、同人一同意欲的に制作に取り組んでおります。

支部長 及川 英之

支部通信

今回は、北海道と東北支部連合の活動紹介です。

北海道支部展への期待

生方 純一

二科会の会員・会友・出品者は関東以西の中京、関西、九州に多く、その反面、東北、北海道と四国地方が少ない。そうした地方にテコ入れしてこうと理事会で決定した。東日本大震災を機に東北地方の救援活動をはじめとし、東北六県の連合展を企画、仙台での連合展を続けた結果、会員や会友推挙、受賞者など成果をあげている。そうした前例もあり、北海道も理事でチームを作って応援しようということになった。

現地の支部活動の事情聴取から始め、現地に負担をかけないことに配慮しながら、今回は会場や出品者の意気を盛り上げることを考え、田中理事長はじめ、担当理事として生方、香川、総理大臣賞だった埴事務局長の作品(50号)を賛助出品するとともに、4人が現地に赴き批評会を開いた。出品者の制作意図を聞き、それぞれの個性を尊重しながらじっくりとアイデアやヒントになることを話し合い、懇親会にも出席し、二科の現状や今後のビジョンと言ったことを伝える機会にもなった。

北海道は他の美術団体の勢力が強く、二科は会員の高齢化や不在などがあり、求心力が薄れていた。101回展で2名が会員に推挙され、ようやく核が出来てきた感がある。また、同人の中には「新道展」などを中心として活躍している人もいて、レベルは高い。

事務局では共同搬入などの具体的な提案を検討していくこととした。

第4回 二科東北支部連合展

平成30年6月22日～6月26日 せんだいメディアテーク

平成27年、東北の各支部が、二科東北支部連合を結集して、第1回展を開催しました。これまで、二科会理事長田中良先生をはじめ理事の先生方に賛助出品をいただくと共に、ご指導をいただけてきました。第4回展は、これまで最も多い絵画50名、彫刻8名が105点の作品を出品しました。

東北支部連合同人一同、第103回二科展により作品を出品できるよう頑張っております。

二科東北支部連合 代表 及川 英之



力強いタッチで多彩に表現追求
仙台・二科東北支部連合
第4回 二科東北支部連合展(二科東北支部連合主催)が22日、仙台市青葉区のせんだいメディアテークで始まった。26日まで。
東北の二科展入選者や出品予定者の油彩画、アクリル画、彫刻など計105点を展示。絵画は色使いや



●北海道支部

第18回二科北海道支部展
平成30年4月10日～4月15日
大丸藤井セントラル スカイホール
ノーザンギャラリー

厳寒の北海道にもかすかに春の訪れを感じる頃、第18回北海道支部展に理事長はじめ3名の諸先生の御来道頂き、短い時間でしたが沢山の収穫を得、充実した勉強会でした。

二科北海道支部(同人12名)は支部活動を会の基盤とし、春季展では新進作家の育成に寄与し、秋の二科展では全道から作品の公募を受け、新人・同人は作品制作に精進しつつ、更に北海道での3大公募展(道展・全道展・新道展)等に各々出品し、自由な創造の精神で、個性豊かに独自の理念に基づき、研鑽を重ねております。

支部長 飯田 由美子



第103回二科展コラボ展示

展示室巡り

スタンプラリー



観るだけじゃない！
来場者参加のコラボ展示へ

4回目となるコラボ展示は、会場が1階A・B、2階A・B・C・D、3階A・Bの各階休憩室と広がりがあります。会場がわからない、回り切れない、との来場者のご意見もあり、各階に広がる会場周知のための新企画です。
二科展観覧者は再入場券のスタンプラリー欄に、各コラボ展示会場にある8つのスタンプを総て押すと



叙勲

平成30年度春の叙勲で、江崎榮彦会員が、教育における永年の貢献に対し、瑞宝小綬章を受けられました。



「第103回二科展コラボ展示缶バッジ」(44mm)が貰えます。

さらに、コラボ展示目録を購入すると、各部参加員の「オリジナル作品缶バッジ」(76mm)も併せて貰えます。

会員の「オリジナル作品缶バッジ」は二科ショップでチャリティー販売もしています。

新たな企画で来場者の流れを3階展示室の「犬テール」まで誘導して、各部門員と来場者も参加できる楽しいコラボ展示会場になります。

短信

◆第53回昭和会賞展

会友・尾形文さん「super moon」50F(アクリル)と、会友・竹淵直美さん「ピエタ」50F(油彩)が入選されました。今期も、二科展U35室の意欲ある作品が期待されます。

◆埼玉県美術展覧会

彫刻部 阿部昌義会員作品「祭りの夢」が埼玉県知事賞を受賞されました

事務局だより

震度6弱の大阪を中心とした地震のニュースや「これは日本かしら？」と耳を疑う程の殺伐とした報道が流れる昨今、6月9日の会員総会の日に起きた東海道新幹線の無差別殺人事件に、私は一瞬固まった。新幹線時刻が違えば日帰りの先生が巻き込まれる可能性も...と思うとぞっとしたのだ。亡くなられた方のご冥福をお祈りするばかりです。

今年役員改選の年でもあった。就任された先生方の熟慮と行動力の一つ一つの小さな積み重ねが二科会全体の大きな幹となり実を結ぶのだと思う。

出品者の目線で、会員会友の目線で、来館者の目線で、相手の立場に立つて物事が考えられたら、それは本当に魅力的な組織になると思う。素敵な作品を魅力的に展示している二科展だという評価に繋がれば、こんなに嬉しいことはない。

今や多方面の資料の基盤となつている。データの蓄積は色々な角度から時代の流れや傾向を考察する指標となる。入場者数の推移は勿論のこと、県別に区分された会員・会友・出品者、入選落選・初入選・受賞・推挙者数、U35の割合等々の表は、実際に肌で感じる現状を目に見える数字で裏打ちしている。

2018春季二科展の展示者数と展示点数

会場：東京都美術館 会期：2018年4月17日～4月24日

	(絵画)		(彫刻)		展示者数	展示点数
	人数	点数	人数	点数		
会員	172名	172点	64名 (会友11名を含む)	64点 (会友11点を含む)	236名	236点
選抜者	46名 (賞3名)	46点	8名	8点	54名	54点
計	218名	218点	72名	72点	290名	290点

数が増えました。そのFAXに最近ではID番号を記入して、期限内に約7割の先生がご協力下さっています。たかが一枚のFAX、されど一枚のFAX。事務局を案ずる先生方のお心が有難く感じられます。

これから始まる今年の第103回二科展、健康に気をつけて、事故の無いように願っております。

事務局長 埴 珠世

編集後記

◆上野の桜が終わると、瑞々しい色の新緑のなかで春季二科展開催です。選抜出品者作品をまず打ち出した会場は、夏に向かって萌える樹々の明るさと呼応するようです。◆春季賞は、奈良、新潟、千葉の一般出品者の作品が、昨年同様選ばれました。短い会期ですが、春季展は手ごろな広さの会場で、選抜、会員作品を丁寧に鑑賞でき、本展とはまた違う趣旨を認識します。◆会員3氏が選んだ作品寸評、なるほど。◆支部通信は、本部の支援も得て、力強い秀作が目立つようになつた北海道・東北各支部の活動が伝えられました。

(N)

編集委員

- 委員長(総) 野村 みそら
- 委員(総) 田川 絵理
- 〃 〃 尾崎 ゆき子
- 〃 〃 谷口 貞久
- 〃(彫) 廣瀬 友彦
- 〃 〃 宮澤 光造

平成三十年六月二十日発行
T10010022
公益社団法人 二科会
東京都新宿区新宿4-3-15
レイフラット新宿 501号室
電話 03(33554) 6646
03(33554) 4768
FAX 03(33554) 4768